

コロラド便り

University of Colorado at Boulder 篠森敬三

大分ごぶさた致しておりますが、如何お過ごしでしょうか。

私は本年3月に東京工業大学大学院を卒業し、この4月からコロラド大学ボルダー校 (University of Colorado at Boulder) に研究員として勤めることになり、4月6日に着任致しました。

コロラド大学はアメリカのコロラド州のデンバーのすぐ近くのボルダーという町の中にあります。この町は大学によってなりたっている学生街で、すぐ近くにロッキー山脈の山々があり自然の豊かなところです。夏はカヌー冬はスキーが出来、一年を通じて野外スポーツを楽しめます。全米でも有名なスキー場が近くにあり、リゾートとしても人気がある所です。

こちらへ来るまでは、ものすごい田舎だと思っておりましたが、学生街だけあって、繁華街にはいろいろなレストランや店が多数ある近代的な町の一面も持ち合わせています。何しろ1マイル (1.6km) 以内に映画館が8軒もありますし、日本食やタイ料理などのレストランもいくつもあります。また店自体もup-to-dateな感じでなかなかおしゃれです。町自体はあまり大きくないのでそこかしこにいろいろな店があり、山や森林もあるので、まるで日本にいるかのような印象を受けます。ただ問題は物価が高いことです。物価はいくつかの例外を除けば、ほぼ日本と同じか日本以上です。現地の人話ではアメリカの他の地域よりも確かに高いそうです。したがって当初予想していたほど楽な生活ではありません。

ここには強力な住民登録番号制度があって、登録自体は任意ですが登録しないと仕事について、銀行口座を開いたり出来ませんし、大学

の身分証明書も貰えません。この登録は日本人でも驚くほど強力で、父親のフルネーム、母親の旧姓フルネーム、人種などを記入した上に、パスポートや入国関係書類の現物を提出しかつ申請者本人が出頭した上で書類を本人自身が記入しなければなりません。しかも入国管理事務所とオンラインでつながっていて申請内容は全て確認されます。この制度のせいで、不法入国の外国人労働者はこの町には全くいません。もしこの登録番号を持たないものを仕事に付かせると、雇用者も罰せられるからです (注1)。

この町の治安は非常に良く、夜中に女性が一人歩き (ジョギング) 出来るほどで、殺人や強盗などは私が来てからは聞いたこともありません。これはこの町の人が治安の維持に非常に熱心であるからだと思います。なんと自警団まで有ります。また日本でも聞いたことが無いのですが、大学内に大学警察署があり、夜中にはパトロールカーが四六時中学内を警戒しています。またバスも夜の12時を過ぎても平気で走っていますが、何の問題もなく、もちろん深夜に歩いて家に帰っても別にどうということはありません。大学学部の学生などは日本と同じ様に、酔っ払って夜中じゅうほっつき歩いていきます。

このようにボルダーは恵まれたところですが、そのかわり不動産価格はほとんど日本の東京と同じです。しかも私の下宿していた町田あたりではなく、実家のある (杉並区) 荻窪付近の相場です。もちろん土地自体は安いのですが部屋や建物は非常に高いです (高金利政策のため)。今は部屋探しには時期が悪く、5月の末頃にはこちらの学生が卒業するので、もう少し条件もよくなるのですが。ちなみに私は、部屋

代を節約するため、英語が話せないメキシコ人（注2）とロッカーの（音楽ばかりやっている）学生とコンピュータ関係の仕事をしているアメリカ人の3人のルームメイトと一緒に暮らしています。部屋以外は全て共用ですが、私を含めてみなとても忙しいので、ほとんど顔を合わすこともありません。お互い部屋には寝に帰るだけの生活です。もっとも条件の良い部屋があればすぐに引越すかも知れません（注3）。

こちらはバスが結構数多くかつ安全なので車がないと1日たりとも暮せないというほどの事はありません。けれども日本以上に車が必要なのも事実で、私は今のところどこにも遊びにいかず大学と家とを往復する毎日です。一番困るのは安売りの店に買い物に行けず、大学内の店で高い商品を買わざるをえない事です。こちらの安売りは目茶苦茶で、突然、全商品がセール期間だけ20%引きになったりします。もちろん本やノートにいたるまで全て値引きされます。毎日通ってセールの情報を仕入れておかないと、後で頭に来ることになります。また特別セール商品は日本と違って（間屋制度がないので）売れるまで無制限に下げられます。ほとんど同じ機能で違ったデザインの商品が、片や定価で\$4.50で片やセールで\$0.50ですから買い物にもなかなか気を使います。アメリカ人は中古品でも平気で使うので、ガレージセールとかもよく見かけますが、中古品の値段は信じられないほど高く、時には新品をセールで買ったほうがずっと安くなることもあります。

ボルダーは冬には雪が降るし、山が多いので、意外なことにマニュアルシフトの車が非常に多く、現にこちらの研究室の人は、ワーナー先生以外はみなマニュアルシフトの車に乗っています。大学から2マイル（約3キロ）位のところに、箱根のターンパイク顔負けのワインディングロードがあって学生がギアチェンジを繰り返しながらががんで走っています。アメリカ人は運転が下手だと聞いていましたが、少なくとも私の知っている人たちは下手な日本人よりもずっと上手です。

私も早く車を買いたいとは思っていますが、車もここでは全然安くありません。10年前の中古車が平気で\$5000で売られていたりするし、\$3000位の車だと70年代製造のものも珍しくありません。私の乗っていた車をこちらで買えば少なくとも\$4000はすると思います。ちなみにこの町は4WDの比率が極めて高く、したがって私の乗っていたスバルレオーネの置いていない通りは有りません。この町の3大ステータス・カーは、ボルボ・サーブ・スバルで、高級住宅街には、4WDの大型ワゴンかさもなくばこの3種類のどれかが置いてあって、大型アメリカ車はほとんど見かけません。大型アメリカ車に乗っているのはだいたい学生と相場が決まっています。ホンダの人気は今一つで、日産車に至ってはほとんど見かけません。トヨタはターセル・コルサクラスのサブコンパクトのみ売られているようです。ちょうど群馬県や長野県でスバルばかり見かけるのと同じ様な感じですよ。

来る前はこちらの大学は、アメリカ西海岸の大学に比べて少しのんびりしているのではないかと思っていました。実際学部の学生は結構のんびりしています。しかしというか当然というか、大学院の学生や博士研究員、そして私の上役に当たるワーナー教授はものすごく働いています。だいたい朝は8時から始まり、夕方は5時までで、あまり残業はしないのですが、その間は集中してががんで働いています。私は日本人なので夜の8時ぐらいまで一人で仕事をしていますが、でも仕事量は5時に帰る他の人と同じくらいです。ちなみに私が日本にいたときの様に、息抜きに研究室でお茶を飲んだりお菓子を食べたりという習慣はなく、そのためのポットや冷蔵庫はありません。

朝8時に大学に行くために、7時には起きます。こちらは夏時間（Daylight saving time; DST）を採用しているので、実際には6時ですからほとんど日の出を見る感覚です。また夕食を食べ終わってもまだ外は明るく7時くらいにようやく暗くなり始めます。この感覚には未だになれ

ません。

こちらの学食は、東工大のキャフェテリア（第2食堂）を、ずっと立派にしたような感じ です。学生アルバイトがその場で調理するサンドイッチやタコスや肉料理などと、取り放題のサラダバーとドーナツと各種飲み物を自由に組み合わせて取っていきます。ただし調理してもらう料理は \$3 くらいで、サラダバーも秤で重さを調べるので \$2 位になり、結局飲み物付きで税込み \$6 くらいになってしまいます。セルフサービスでかつ学食で昼からこの価格では、あまり学食のありがたみは有りませんが、ピザ一切れにコーラで \$3 という普通の学生の食事にはどうしても慣れないので仕方がありません。家族持ちの人はみな家からお弁当を持ってきて食べるか、あるいはお昼抜きにして家で夕食を食べるかしています。

私は心理学科に所属していますが、この分野での大学院生や研究員で日本人なのは現在私だけです。認知科学学科にはマスターコースの日本人大学院生が一人います。しかし彼も忙しいので結局私は自分のことはこちらの博士研究員の Brooke と二人でやりました。彼は別に日本語が判るわけではないので、番号登録とか税務署に行ったり大学の事務室に行ったりするのは結構大変でした。もちろん部屋探しはもっと大変で、私はアメリカ人の部屋に対する感覚を知らないで、最初は何を言っているか判りませんでした。しかし良い勉強にはなったと思います。

一方、学部学生には日本人がたくさんいて結構目立ちます。日本人学生には2種類あって、アメリカ人のグループ中にただ一人いて格好もまるで日系人のようになっているタイプと、常に日本人のグループ内において日本語しか話さない日本人観光客タイプがいます。私は日本人の知り合いが全然ないので、こちらの研究室の人かスタッフの人としか話ませんが、格好は日本人観光客なのでどちらでもないというところ です。もっとも、穴の開いたジーンズをはくような年ではありませんので、日系人タイプの

学生のようににはならないでしょう。観光客タイプの学生の方々は見ていて呆れるばかりです。もう半年もこちらで学生をしているのにいまだに学食で注文ができないのですから。仲間同士で日本語で相談しているようではいつまでたっても、注文できるようにはならないでしょう。もっとも私も人のことは言えない訳で、いまだに何が出てくるか判らないことがあります。"Quiche" を注文して何が出てくるか予想できますか？

研究室の人たちを紹介しておきます。私の上役に当たるのが John S. Werner 教授で、心理学科の主任教授をしています。私と同じ部屋を使っているのが先程も出てきた Brooke E. Schefrin という博士研究員の人です。私よりも大分年上でもう子供が2人もいます。彼はカリフォルニア大学 (UC) のバークレー校で Ph.D. (博士) をとっています。もう一人の博士研究員は学部もマスターコースもドクターコースも全てコロラド大学という David H. Peterzell という人です。彼も私より少し年上です(注4)。あと黒みの研究をしていた Vicki Volbrecht さんもいます(注5)。

大学院の学生はいまのところ James Kraft 君しか知りません。彼はまだマスターコースの途中ですが私と一つ違いの27歳です。でもとても良い暮らしをしています。彼の家に遊びに行ったのですが、一つの家を借り切って住んでおり、一部屋を Girlfriend に与えて食事なども作ってもらっています。Nakamichi の CD プレーヤーを D/A コンバータを使ってドライブし、Mark Levinson のパワーアンプで Monitor Audio のスピーカーを鳴らしているといえば、彼がどんなに贅沢をしているか判る人にはわかるでしょう。しかもベッドルームとは別の仕事部屋にコンピュータ (マッキントッシュ II ci) を置き、客用のリビングもあるので。他の人も彼のような暮らしをしているとすれば、日本もまだまだだなあとと思います。

私は相変わらずの暮し振りで、まるで日本での生活をそのまま続けているかのようです。基

本的には日本人もアメリカ人も同じ人間なので、大した違いはないような気がしますし、研究自体は万国共通ですから、。

こちらにいと日本での出来事はほとんど判りません。何でも良いですからお返事をお待ちしています。

平成4年4月26日

Keizo Shinomori
Muenzinger Psychology Building #D457C
Department of Psychology
University of Colorado at Boulder
Boulder
Colorado 80309-0345
USA
e-mail: kshinomo@clipr.colorado.edu

(注1) 社会福祉番号 (Social security number) 登録のこと。この制度は全米にあり特にボルダーにだけあるものではありません。念のため。

(注2) グリーンカード所持のメキシコ人。当初は不法入国だったそうです。

(注3) 学生は5月中旬に卒業してなくなりました。今のルームメイトは4人でアメリカ人のエンジニア2人が加わっています。

(注4) Davidはサン・フランシスコにあるSmith-Kettlewell Eye Research Institute に移籍しました。

(注5) 彼女はコロラド州立大学 (Colorado State University) の先生です。